



**aaaca** 一般社団法人 日本建築美術工芸協会  
30周年記念事業  
第194回 aaaca フォーラム

## ステンドグラスの本質 ～パブリックアートとしての側面からの展望～

講師

ひらやま たけお  
**平山 健雄氏** ステンドグラス作家

1949年 東京生まれ。  
武蔵野美術大学実技専修油絵科研究課程の頃よりステンドグラスを始める。  
3年間日本の工房で勤務の後、フランス国立高等工芸美術学校ステンドグラス科でフランス古典技法を学んで帰国 工房設立。  
2000年 横浜市より貴重な技能者として「横浜マイスター」の称号授与。  
2005年 日本建築士連合会より伝統技能士として表彰。  
数々の公共建築物にステンドグラス設置。  
歴史的建造物に付随するステンドグラスの修復・研究に携わる。  
光ステンド工房 代表。

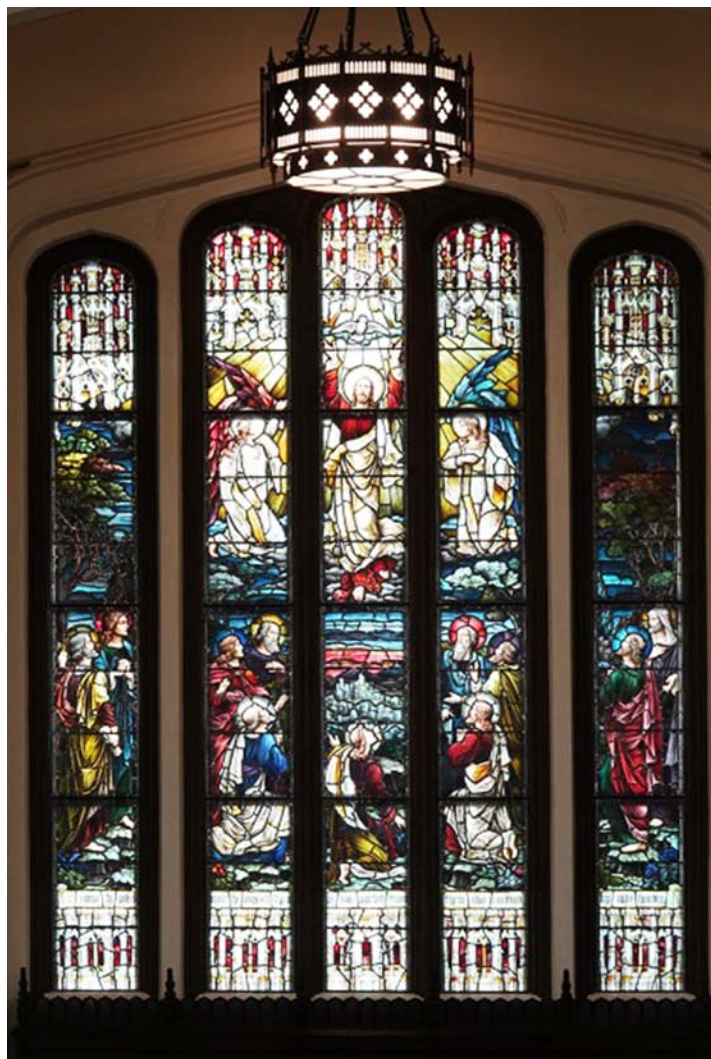


日時

**2018年11月5日(月)**  
於 **サンゲツ品川ショールーム**

受付 17:30～  
講演会 18:00～19:15 (質疑応答含)  
懇親会 19:30～20:30

申込方法は裏面



教会建築と共に歩いて来たほぼ900年もの歴史を持つ芸術ステンドグラス。その本質は、意外と知られていません。ゴシック芸術の華として教会堂の光空間を飾った見事な素材は、時代が進むにつれてその輝きを失い、デカダンスの一途をたどったとの定説が研究者の間では一般的になっています。

日本にこの芸術が紹介されたのは約110年前になります。ヨーロッパではアール・ヌーヴォー、アール・デコラティヴ全盛の時代で、そのスタイルが現代にまで踏襲され続け、日本では独特のステンドグラスとなりました。

その100年の間、ドイツやフランスでは建築に次々と新しい試みがなされたが、ガラスを代表とする素材が建築空間を演出し、光に満ちた内部空間に暗がりが必要とする華やかな色彩を持つステンドグラスの必要性が現代では限られてしまっています。しかし、近年現代アートとも云える作品がフランスのロマネスク礼拝堂などに数多く設置され、中世的無名性を特徴とする「神への仕事」から「作家の表現の場」に移りつつあります。パブリックアートとしての側面も持ち合わせているこの芸術を修復家としての観点からも展望してみたいと思います。(平山健雄)

## 定員・会費

## 先着60名

### 申込方法

参加ご希望の方は、

- ・氏名・勤務先・住所・電話番号・emailアドレス
- をご記入の上、fax、E-mailにて**10月26日(金)**までに下記宛てにお申し込みください。  
定員になり次第締め切ります

(一社) 日本建築美術工芸協会 事務局宛  
Fax : 03-3457-1598  
e-mail : simpo@aacajp.com

### 主宰

一般社団法人 日本建築美術工芸協会

108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館  
TEL 03-3457-7998 FAX 03-3457-1598  
URL <http://www.aacajp.com/>

講演会 aaca 会員 1,000 円  
一般 2,000 円 / 学生無料  
講演会後交流会あり (参加費 2000 円)

### 会場

#### サンゲツ品川ショールーム

東京都港区港南 2-16-4 品川グランドセントラルタワー 4F  
tel 0570-055-134 品川駅港南口より徒歩5分

